

編集委員のお薦め50選

中野正明 選

発行年月（号）	タイトル	著者	選考理由
1988年9月号	曲線推進工法の現状と課題	木村宏一 機動建設工業(株)	推進工法の発展の中で大きな役割を果たした、曲線推進工法における考え方を分かりやすく解説するとともに、設計・施工上の課題などにも言及した、「曲線推進工の原典」ともいえる論文
1993年6月号	土質条件に起因する トラブル事例からの考察	濱田和人 五洋建設(株)	近年の推進工法の施工においてもトラブルが絶えない礫・玉石地盤の施工に対して、幅広く解説され、土質調査・工法選定などの重要性を再認識できる解説文
1996年12月号	岩盤屋のたわごと	本間良治 (株)推研	岩盤推進における留意点を3種類の岩種別に解説して、強度の判定や切削のポイントなど多くの経験から得られた技術を網羅し、岩盤推進に対する筆者の熱意が伝わる解説文
2003年6月号	礫地盤における 最大礫長径調査の実施例	岡山幸司 青森市下水道部	主に小口径推進工法の選定にあたって重要な要素である、最大礫径（長径）の調査を、発注者の立場から率先して行なった報告であり、文中にもあるように適切な調査・選定の重要性を啓発する投稿文
2009年6月号	時期尚早であった推進技術提案	岡村道夫 機動建設工業(株)	今日では類似の技術が一般化されている約40年前に提案し施工された推進+シールド施工や、中大口径の低耐荷力管推進工法などが紹介され、当時はなぜ普及しなかったのかを考え、今後の開発のヒントにもなる解説文

川相章 選

発行年月（号）	タイトル	著者	選考理由
1992年2～ 1993年1月号	小口径管推進工法の 高度化に関する研究	高津知司 他 建設省土木研究所	遠隔操作が不可欠である小口径管推進工法の操作方法について、一般作業員が熟練オペレータ操作できるようにAI(人工知能)システムを応用。Yes Noではなくファジーあいまいさを持たせ人間の感覚に近い表現をし、推論や制御を行わせようと試みた。今後、推進工法の発展に必要な挑戦し克服すべき課題もここでは感じることができる。
2003年3月号	管内貯留の発想史と推進工法	藤田昌一 長岡技術科学大学教授	現在の超大口径管推進工法をはじめとした推進工法が、雨水幹線構築に活躍を見せ始めている現況をまさに言い当てており、推進工法に対するさらなる期待感を抱かせる。
2003年6月号	推進工事における滑材効果の考察	中村啓 笠松町水道課	長距離推進に不可欠である推進力低減のための滑材効果を理論的に解説しており、滑材に関する理念を強く感じることができる。
2005年6月号	推進工法に見る 下水道管渠施設の地震対策	石川和秀 (公社)日本推進技術協会	社会資本である管路を後世に伝えるために、推進工法の採用がいかに重要であるか、東日本大震災の後だけに関係者は一読すべき。
2009年11月号	曲線鋼管推進で大断面トンネルの 地中接合と高速道路の分岐合流部	佐藤栄徳 NEW TULIP 工法研究会	推進工法の適用性の拡大例として注目、推進工法が有する利点が採用理由とすれば、さらに多分野での活躍の期待を感じさせられる。

西口公二 選

発行年月（号）	タイトル	著者	選考理由
1987年11月号	泥水式推進工法の開発にあたって	大西一行 (株)奥村組	推進工法の黎明期の技術的課題（現在は解決済みのことである）が述べられており、当時の技術レベルを感じることができる。
2002年9月号	大津市・里川雨水幹線管渠築造工事における超長距離推進工事と多曲線施工について	奥村雅俊 大津市河川下水道部	長距離推進工事の施工報告。工事全般について極めて詳細に分かりやすく紹介されている。結果に対する分析、考察、課題につてもしっかりと言及している。
2003年11月号	推進工法1kmの時代に向けて— φ1350、L=1010.05m 国内最長距離の施工	岩永信 丸岩推工(株)	岩盤推進における留意点を3種類の岩種別に解説して、強度の判定や切削のポイントなど多くの経験から得られた技術を網羅し、岩盤推進に対する筆者の熱意が伝わる解説文。
2005年8月号	推進・シールド併用工法による 長距離施工	大久保新助 (株)奥村組	内径2400mmの推進（1043m）・シールド（733m）併用且つ地中接合の極めて特殊な工事の施工報告。ここまでやるかという技術者魂を感じる。推進部が懐かしき管被膜推進工法。
2010年8月号	大中口径管推進工法の礫地盤における トラブル防止 —礫地盤推進技術の高度化に欠かせない環境とは—	川相章 (公社)日本推進技術協会	礫地盤に関する施工上の留意事項が詳細に述べられている。

稲葉富男 選

発行年月（号）	タイトル	著者	選考理由
1995年8月号	推進工事に用いる レーザー応用機器	平野聡 (株)トプコン	推進工事の測量では確固たる地位を築いているパイプレーザーの開発経緯がよくわかる。現在読み返しても内容に古さを感じさせない。
1996年10月号	推進工法に用いる「ジャイロコンパスナビゲーションシステム」について	藤田幸雄・山本浩二 機動建設工業(株)	曲線推進工事の測量技術の重要な要素技術であるジャイロコンパスの紹介である。ジャイロの特性・計測の原理が述べられている。またこの技術の弱点にも触れている。
2004年6月号	新曲線位置計測技術 —prism—	前田公洋 エースモール工法協会	小口径推進工事の曲線測量の草分け的存在のエースモール工法の測量紹介である。題材のPrismだけでなく、小口径では定番の電磁波方式や液圧差方式にも言及しており、これを読めば小口径推進工事測量の主要な部分が理解出来る。その他、最近の技術としては走行台車方式やカメラ方式が開発されている。
2006年6月号	自動測量システムの動向と 設計積算上の留意点	西村重一 (公社)日本推進技術協会	大中口径推進の測量の概論と設計および積算の考え方が理解出来る。設計担当者には必読の一遍である。
2010年7月号	暗中模索、どこへ到達、 最新技術が解決	稲葉富男 (株)ソーキ	推進測量技術の総まとめと位置づける。現状の測量技術の紹介をするとともに、抱える課題や問題点も測量屋の目線とメーカー目線からまとめている。